



名古屋柳城短期大学

# ちやべるにゅーす

第2号・クリスマス特集

2001年12月1日

毎日がクリスマスだったらいいな、せめて月に一回でも。子どもの頃そんなことを思った人はいませんか。おいしいご馳走やケーキ、そしてプレゼント、それがなくても、なんとなく楽しい。だからそんなクリスマスが毎日あったらいいな。そんなことを思ったことはないでしょうか。私は、今でも毎日がクリスマスだったらいいなと思っています。

主イエス・キリストの誕生を祝うクリスマスは、キリスト教の大切な祝日の一つです。しかしそれ以上に、今ではいろいろなお店や

学校や職場、そして各家庭でも楽しい一大イベントの一つになってきていると思います。

そんな中で、教会では「本当のクリスマスは教会で」という言葉を時々使います。教会以外でお祝いするのは、ちょっと違いますという感じでしょうか。確かにそれはその通りです。クリスマスは、主イエス・キリストの誕生をお祝いする礼拝なのですから、教会にこそ本当のクリスマスがあるというのは正しいのです。

しかし、「本当のクリスマス」とは、ちょっと深く考えると、大変なことです。それは、単にいつもと違う綺麗で素晴らしい礼拝があるということだけではないからです。主イエス・キリストの誕生を喜ぶこととは、悲しいこと、貧しいこと、憎みあうこと、争いあう

こと、独りぼっちでいること、そのような苦しみ、これからは無くなる、そんな世界が主イエス・キリストによって始まる、それを喜ぶことだからです。

もちろん、主イエス・キリストがこの世に誕生した後も、そしてクリスマスが祝われるようになって、この世界の苦しみは続いています。きっとこれからも続くでしょう。様々

なメディアで世界のことが分かってしまう現代は、余計にそれを感じてしまうかもしれません。しかし、せめてクリスマスの日だけ

でも、世界中で貧しさも悲しさも、争いも憎しみも、独りぼっちになることも無い平和の日になるとき、本当のクリスマスがあるのだと思います。そんな日が実現するのであれば、その祝い方は、教会で祝っても、家族で祝っても、友達と祝っても、大好きな人と二人きりで祝っても、「本当のクリスマス」だと思います。

キリスト教以外の宗教の人にとっては、クリスマスは祝日には思えないかもしれません。でもこの一日だけ、難しいことは考えないで、ちょっとこの平和の日に合わせて下さい、そんなことが言えればと思います。そしてそんなクリスマス、平和の日が、少しずつ増えていけば、きっと素晴らしい世界がおとずれると思うのです。

## 毎日がクリスマスだったら

菅原裕治

本学教員・チャプレン

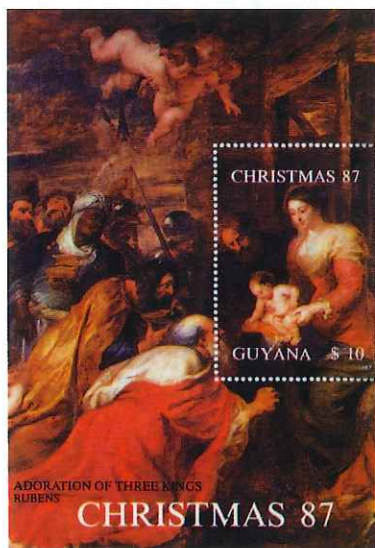


## クリスマス切手あれこれ

尾上明子  
本学教授

クリスマスになると、世界中でクリスマス切手が発行されます。それはキリスト教国に限りません。名画やサンタクロース、美しいもの、楽しいもの、お国柄のでたもの、自然のものに至るまでその題材は限りを知りません。ある国々は、切手販売によって国の経済を潤しているほどです。クリスマスシーズンになると多くの人々は、切手を心待ちにしているのです。

今回ご紹介するのは、①ガイアナ（旧英領1987年）②ドイツ（1999年）③クリスマス島（1986年）④カナダ（1998年）です（a～e）。



①

①は、有名なルーベンスの降誕の絵画を切手にしたもので、点線内の幼子イエスと母マリヤの所が切手として使えます。けれども、実際は、このまま貼り、絵として楽しむことができます。

②は、作者は不明ですがドイツの愛らしい切手です。ドイツでは、クリスマスのことを、ヴァイナッハテン (WEIHNACHT-



②



③

EN) と言います。

③は、太平洋の真中にある、その名もずばりクリスマス島の切手。サンタクロースの休日とでもいいでしょうか。のんびりと海辺でくつろぐサンタクロースとトナカイ、つりやヨット・ゴルフを楽しむサンタクロース。やっぱり、良い仕事をするためには休むことは大切ですね。

④は、本学と繋がり深いカナダの切手です。この一連の切手は、世界のサンタクロース（プレゼントを運ぶ人・プレゼントブリンガー）と言われる人物が題材にされており、大変興味深いと思いますので分かる限り簡単にご紹介しましょう。こう申しますと、「え！サンタクロースは一人じゃないの？」という声が聞こえてきそうですが、いわゆるサンタクロース、すなわち聖ニコラウス以外にも世界には多くのプレゼントブリンガーたちが存在しているのです。サンタクロースとよく似たような人物や、全く違うけれどもそのような役割を担う存在が民族の中で親しまれているのです。今回の切手は、その一部です。

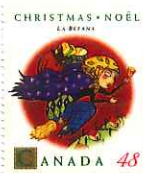


④aは、ユール・スヴェンと言われるアイスランドの悪鬼です。見かけはサンタクロースと似ていますが、起源は全く異なる存在です。

④a なる存在です。クリスマスの時期になると山から降りてきて悪い子を脅すと信じられてきました。はじめは、巨人で醜いトロールのような鬼でしたが、時代とともにサンタクロースと区別がつかないように描かれるようになりました。

④bは、この中でも最も興味を持たれるか





④b もりません。イタリアの伝説上の老女・ベファーナ (LA BEFANA) は、魔女で3人の博士が頼んだベツレヘムへの道案内

④b を断ったことを後で悔い、未だに博士たちを探し幼子イエスに出会うため世界中を回り、その道すがら良い子にプレゼントを配っているのだそうです。



④c は、聖ミクラーシュ (チェコ) という存在です。12月6日は、聖ミクラーシュの日として、今日も祝われており、この日聖

④c ミクラーシュは、家々を回り小さな子どもたちにプレゼントを配ります。絵のように、司教服と司教帽をつけた長いひげの老人です。手には司教杖、絵ではプレゼントの入った白い袋を持っていますね。お供には、天使と悪魔を連れているかどちらか一方の時もあります。この絵では、天使ですが天使は女性であることが多く、星を持っています。聖ミクラーシュは、家に入ると子どもたちがお行儀を良くしているか、ちゃんと勉強しているかなどと聞きます。そして、良い子にはお菓子やくるみ・りんごなどを与え、悪い子には、じゃがいもや石炭を渡します。けれども今は、もっぱらお菓子ばかりになっているそうです。



④d は、ドイツのヴァイナツハマン。前述のようにドイツでは、クリスマスにヴァイナツハテンと言いますので、ヴァイ

④d ナツハマン、すなわち、直訳でクリスマスの男、一般的にクリスマスおじさんと呼ばれる人が存在します。ヴァイナツハマンが誕生したのは、割合新しく1847年、当時の人気挿絵画家モーリッツ・フォン・シュビントの絵本に登場しました。頭にヒイラギ、もみの木を担ぎ、白く長いひげと贈り物を持っている姿は限りなくサンタクロースに似ています。



④e

④e は、いよいよおなじみのサンタクロース。サンタクロースは、ミュラ (現在のトルコのデムレ) の聖

人と言われたニコラウス、すなわちサント・ニコラウスをアメリカに移民したオランダの人々がシンタクラス (Sinterklass) と呼んだことから、だんだんサンタクロースと発音されるようになりました。聖ニコラウスは、紀元271年から342年12月6日まで生き、東方教会で最も大衆的な聖人として広く敬愛されてきました。また、さまざまな奇跡をもたらして不幸な人々を助けたことから、子ども・少女・船員・学生・パン職人・肉屋などの守護聖者として人気がありました。彼にまつわる有名な伝説の一つは、靴下をつる子どもたちがプレゼントを待つという習慣のルーツと言われています。聖ニコラウスは、3人の娘のいる貧しい貴族が生活の苦しさから娘たちを結婚させることも出来ず、とうとう身売りさせようとしていることを知り、その罪の深さに驚き、夜こっそり貴族の煙突から金貨を投げこんだところ、その金貨が暖炉に干してあった靴下に入り、このお金で長女は結婚でき、2女、3女と度々お金を置いていったというのです。このことから、ひそかに人に喜んでもらう贈り物をする習慣ががついたとも言われています。え？なぜ聖ニコラウスが贈り物をしたのが分かってしまったのか？安心してください。それにも伝説があり、貴族は1度ならず2度続いたとき、贈り物をしてくれた人をどうしても知りたくて寝ずに見張っていたとのこと。とにかく、聖ニコラウスにまつわる伝説は、心を暖かくしてくれます。この精神がクリスマス、すなわちイエス様の心と一つになって、クリスマスとサンタクロースは、切っても切れない関係になったのでしょう。



## 水曜日の礼拝から



谷 修子さん  
本学卒業生

子どもたちと過ごす日々は喜びと、輝きいっぱい毎日です。そして、たくさんの方に気付かせてくれます。

私が年少組（3歳児）の担任を初めて受け持ったときの事です。私の勤務していた園はキリスト教の幼稚園だったこともありクリスマス会がありました。各クラスがお誕生されたイエスさまにそれぞれ一つ劇をプレゼントし、みんなでお誕生をお祝いするのです。本来は喜びいっぱいその日の準備をし、劇をするはずなのに、私は他のクラスと比べてしまったり、立派なものにしようとしてしまった時がありました。まさに心に宝ではなく見える宝を積もうとしていたのです。

自分でも子どもとなにかつながっていないようなしっくりいかないような、自分をもつぶしているような気持ちに悩み、シスターに相談をしました。シスターは私に『私はひつじかい』という一冊の絵本を貸してくださいました。ひつじかいがひつじたちのことを、それぞれ一匹一匹のことを大切に思っているということ、そして迷子になった一匹のひつじを、みつかるまで探すという聖書の「マタイによる福音書」第18章10～14節を子どもにわかるようにしたおはなしでした。

その絵本を私は子どもたちと読み、その後、私はひつじかいに、子どもたちはひつじになりごっこあそびをしました。私はひとりひとりの名前とそれぞれの特徴を呼びながら探します。3人目にまだところがびったりつながっていないなと感じていたAちゃんの名を呼びました。「おおーい、Aちゃんひつじー！寒い中ごえてはいないかなあ・・・おおか

みに追われていないかなあ・・・小さくて私の大好きなAちゃんひつじやあーい！」すると教室の隅から「メェ～ここにいるよーメェ～」と小さなこえが聞こえました。私が「みつけたぞ！寒くなかったかい？おおかみに追われてなかったかい？よかった無事でよかった。」と抱きしめると、Aちゃんは見つけれられたよろこびでしょうか、涙をながし「ありがとうとーメェ～」とギョッと抱き返してくれたのです。私も見つけることが出来たこと、また出会えたことがうれしくて、やっと心が通じた気がして涙がでました。

いつのまにか保育者だから子どもを受け入れる側、愛を与える側、何かを伝える側と思っていた私は間違いに気付きました。子どもたちが私を受け入れてくれていたのです。子どもたちは失敗や間違いをしてしまう私なのに、そんな私もふくめ私のすべてを受け入れて、愛をくれていたのです。子どもたちの中にだれをも受け入れ、ひとりひとりを愛してくださるイエス様を感じました。そして、ひつじかいのなかにもイエス様を感じ、私もひつじかいのようにひとりひとりを大切にすることのできる保育者になりたいと思いました。

このときが私は幼稚園の先生になって本当によかった、と思った時です。こんなにたくさんのかわいらしい愛につつまれ、イエス様の一番近くにいる子どもたちと共に成長していける仕事・・・本当に幸せです。その後私はクリスマス会で子どもたちと一緒にイエス様へのお祝いの気持ち、感謝の気持ちで喜びいっぱいの劇をプレゼントすることができました。いや違うのかもしれない、このクリスマスに向けてのあの日々は、イエス様から私たちへのクリスマスプレゼントだったようにも感じます。



どんな仕事についてもどんな日々を過ごしてもさまざまな出会いがあると思います。みなさんの心の中に、そしてみなさんと関わる人々の中にいらっしゃるイエス様の手足をしばらくすることなく過ごし、また仕事をしていけたらいいですね・・・。

チャペルで柳城生のみなさんに出会えたこと、とても嬉しかったです。みなさんの真っ直ぐであたたかいまなざしに出会って、保育者になりたいと柳城に入学した頃の自分を思い出しました。そして、こんな素敵な雰囲気のある学校で私も過ごしていたのだなあ、柳城の学生であってよかったと、あらためて幸せと感謝の気持ちでいっぱいになりました。三年間しか働いていない私ですが、その中でも何度か失敗をし、反省をしました。そして、その中でたくさんのことを学び、喜びを見つけることが出来ました。みなさんがいつか職業について、たくさんの人たちや、たくさんのことに出会い、よろこびと出会うことができますようおいのりしています！

## キリスト教Q & A



司祭アンブロジーオ  
後藤一郎  
豊田聖ペテロ聖パウロ教会牧師

### Q 1 クリスマスは、イエス様の誕生日なのですか？

12月25日のクリスマスは、もともとはペルシャ起源のミトラ教という太陽神ソル・インヴィクトゥス（無敵の太陽）の誕生日でした。キリスト教会は、325年のニケア公会議という会議でこの太陽神の誕生日を、義の太陽（マラキ書4:2）であるキリスト・イエスの誕生日として受け入れ、祝うようになったとされていますが、確かなことは分かりません。とにかく、当時のローマでイエス様の誕生日が

12月25日であるとされましたが、聖書のどこにも、イエス様が12月25日に生まれたとは書いてはありません。ですから東方教会という教会では、イエス様の誕生日を1月にお祝いしますし、本当の誕生日は分からないので、お祝いしない教会もあるくらいです。

さらに、生まれた年も定かではありません。今年2001年ですから、イエス様が生まれてから2001年たったはずですが、実は数年のズレがあります。西暦(注1)を提唱したのは、6世紀のローマの修道院長、ディオニシウス・エクシグウス(500頃-560年)という人でした。ディオニシウスさんはそれまでの王様、支配者ごとに違う年号の数え方を改めて、キリストの誕生を紀元にした西暦を考案しました。しかしその時、計算ミスをしてしまい、ズレが出てしまったのです。しかし、現在でもイエス様が生まれたのは、B.C. 4、5年もしくはB.C. 7年ということ以上詳しくは断定できていません。

ちなみに、西暦で言う、B.Cは"before Christ"キリスト以前の略であり、A.Dはラテン語"Anno Domini"「主の年」の略です。

### Q 2 キリスト教とイスラム教は仲良くできないのでしょうか？

皆さんは、ニューヨークのテロ事件など、いつもキリスト教とイスラム教が争いをしていいるなど感じるかもしれません。残念なことです。キリスト教、イスラム教は、長い間エルサレムという共通の聖地を巡り、イスラム教国と十字軍などの争いなどをはじめとして、偏見をもってお互いを見てきた歴史があり、良い関係にあるとは言えませんでした。

しかし、1974年の4月に、前のローマ法王パウロ6世が、唯一神の信仰において、キリスト教とイスラム教の間に何ら本質的違いがないという信念を伝え、同じ年の10月には、サウジ・アラビアのイスラム教の大長老がヴァチカンに答礼するという出来事がありま



